言語活動ワークシート　記入例

◆教科　言語文化　古文編　単元の言語活動３

◆月が詠まれた和歌を鑑賞する

課題　月の呼び名を調べ、月が詠まれた和歌を鑑賞してみよう。

1 月の呼び名を調べてみよう。

①「陰暦月齢表」（三五八ページ）を見て、日付ごとに月の呼び名がどのように変わるか、確認する。

②「立待月」「居待月」「臥待月」の呼び名の意味を調べる。

立待月	居待月	臥待月

③「有明の月」とは、どのような月を言うのか、調べる。

有明の月

2 次の『百人一首』の和歌ア～ウについて、①～③の手順で鑑賞してみよう。

ア　月見れば千々にものこそかなしけれわが身一つの秋にはあらねど　（二十三番　大江千里）

イ　有明のつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし　（三十番　壬生忠岑）

ウ　夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月宿るらむ　（三十六番　清原深養父）

①六つのグループを作る。グループA・Bのメンバーはア、グループC・Dのメンバーはイ、グループE・Fのメンバーはウを「持ち歌」とする。グループ内で「持ち歌」について、「現代語訳」「月がどのようなものとして詠まれているか」を話し合い、文章でまとめる。

②グループを解体し、「持ち歌」ア・イ・ウのメンバーを必ず含む新しいグループを作る。新しいグループ内で、①でまとめた各自の「持ち歌」についての文章を発表する。

③ア～ウを比べた感想を新しいグループごとに発表する。

◆ア　月見れば千々にものこそかなしけれわが身一つの秋にはあらねど

現代語訳	月はどのようなものとして詠まれているか

◆イ　有明のつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし

現代語訳	月はどのようなものとして詠まれているか

◆ウ　夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月宿るらむ

現代語訳	月はどのようなものとして詠まれているか

3 『百人一首』の中から、ア～ウ以外で月が詠まれた和歌を一首選び、「月がどのようなものとして詠まれているか」について考え、鑑賞してみよう。

◆『百人一首』で月を詠んだ和歌

選んだ和歌と作者	現代語訳	月はどのようなものとして詠まれているか

【発展】

他の人があげた『百人一首』で月を詠んだ和歌では、月はどのようなものとして詠まれているか、わかったことをまとめよう。